



池田町立 高瀬中学校

池田町活性化プロジェクト

14のプロジェクトで池田町を私たちが元気にする!!



14のプロジェクト (一部)

●森林組合の人と協力し、間伐材でスウェーデントーチづくり ●地元の雑貨屋に作り方を学んだハンカチや巾着袋づくり ●地元の雑貨屋に作り方を学びに行き、池田町の花やハーブ、池田町出身の浅原六朗が作詞した童謡「てるてる坊主」に関連させたデザインのトートバッグづくり ●地元のお店が登場する小説づくり ●楽しく池田町のことを知ることができる「いけだまち検定」の作成 ●地元パン屋さんとともに池田町ならではのパンの開発 ●空き家で美術イベントを開催 ●池田町特産ハーブを使ったせっけん作り ●商店街にシャッターアートをつくる など

活動の集大成「池田町の未来へ繋ぐ発表会」

2023年12月、3年生が総合的な学習のまとめとして「池田町活性化プロジェクト」の実践発表会を「池田町交流センターかえで」で行い、地域の方々に感謝を伝えました。

係決めから基本計画に沿いながら発表会に向けて準備を進め、発表については高瀬祭、大町つながるマルシェでの経験を活かしました。地域の人たちからは賞賛の言葉が多数寄せられました。

「自ら拓き 共に生きる」を目標に

高瀬中学校の生徒は、「自律して学ぶ」「対話する」ことを大切に、地域の自然、文化、人などに積極的に関わり、多くの人との出会い、つながり、違いを楽しもうと学校生活を送っています。そして、自分で考え、決めて、チャレンジすることに取り組んでいます。

〈具体的な取り組み内容〉

- ①自己管理能力を高めるために「スコラ手帳」でスケジュール管理を行っています。
- ②学びそのものの楽しさを味わうために、自学で自分の興味関心があることを学んでいます。昇降口には生徒たちの学びの成果が展示されています。
- ③学年を超えて小グループで対話する「高瀬サミット」を行い、学期に1～2回程度、学校生活や人権について話し合っています。

高瀬中学校 HP

<https://takase-jh.ikedamachi.ed.jp>

福祉教育のポイント

中学生も地域の一員です。自分の町について考え、話し合い、実際に動いてみるとたくさんの学びがあります。一方、町の人たちにとっても笑顔や元気を引き出してくれる中学生の力を感じています。

上田市立 真田中学校

私たちの村で彫刻の森を仲間と共に

卒業生によるブロンズ像制作



社協ともつながり、地域行事へ積極的参加

真田中学校は、戦国武将真田氏発祥の地にある学校です。旧真田町（2006年から上田市）の頃から地域の行事や福祉に関わる様々な催し物に地域の一員として参加協力しています。

地域行事等への参加については、生徒会の福祉委員会が中心となって全校に呼びかけ、ボランティアの募集を行っています。

中でも社会福祉協議会主催の「ふれあい広場 in さなだ」には、毎年多数の生徒が参加しています。「ふれあい広場」は、地域に暮らす障がいを持っている人もいない人も、お年寄りも、子どもも、様々な人たちが支えあい、お互いの価値観を認めあい、誰もが住みよい地域づくりのために、ふれあいと語らいの場をみんなでつくりあげるイベントです。バザーや飲食・雑貨販売、体験コーナーなど様々なブースがあり、真田中の生徒は打ち合わせ段階から参加し、当日、会場の準備をしたり、お手伝いをしたりしています。

また、秋に開催される上田真田まつり、真田総合文化祭では、吹奏楽部やダンスグループが参加し、イベントを盛り上げています。

「食と命」の学習とサルビア栽培が伝統

全学年で「食と命」をテーマとした探究的な学習に取り組んでいます。2023年度は総合的な学習の時間に、栄養職員の先生から話を聞いたり、農業支援センターの推進員から「食と農」をテーマにした講演を聴いたりしました。農業体験では地域の方とともに、米、そば、野菜、りんごのグループごとに栽培を行っています。また、給食委員会がサツマイモを栽培するなど、給食の献立づくりにも生徒たちが関わっています。

学校周辺の道路沿いなどの緑化活動として行っている生徒一人一プランターのサルビア栽培は、地域の学習支援ボランティアの協力を得て、伝統として受け継がれています。サルビアの花は、真田氏の赤備え（赤い鎧兜）になぞらえています。

真田中学校 HP

<http://www.school.umic.jp/sanada/index.php>

福祉教育のポイント

ボランティア活動の魅力の一つは、地域の大人や初めて会う人たちと一緒に活動することで、自分の視野や経験が広がることにあります。これは地域にとっても、未来を創る力を育み蓄えているといえるでしょう。